

令和元年度 第 1 回沖縄県がん診療連携協議会 医療部会 議事要旨

日 時：令和元年 12 月 25 日（水） 15：00～16：30

場 所：琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構 成 員：8 名

出 席 者：<がんセンター>4 名

宮里浩（那覇市立病院）、照屋淳（北部地区医師会病院）、又吉賢弘（沖縄県友声会）、増田昌人（琉球大学医学部附属病院がんセンター）

<スカイプ参加>1 名

岸本信三（宮古病院）

欠 席：3 名

朝倉義崇（中部病院）、篠崎裕子（八重山病院）、仲里可奈理（沖縄県保健医療部健康長寿課）

陪 席 者：1 名

岸本夕紀（琉球大学医学部附属病院がんセンター）

【報告事項】

1.医療部会 委員一覧について

増田委員より、資料 1 に基づき医療部会委員について説明があった。その後自己紹介が行われ委員が確認された。琉大病院は調整中と報告があった。

2.その他

特になし。

【協議事項】

1.部会長及び副部会長の選出について

部会長に宮里委員、副部会長に照屋委員と、現在調整中の琉大病院の委員に決まった。

2.沖縄県におけるがんゲノム医療について

増田委員より、資料 2 に基づき沖縄県におけるがんゲノム医療について説明があった。何か不明な点がある場合は増田委員宛に電話で連絡するよう説明があった。

3.「北部・宮古・八重山医療圏におけるがん医療をどこまでやるのか」について

増田委員より、資料3に基づき委員から意見を聞きたいと説明があった。

岸本委員より産婦人科医をもう1人探してほしい場合はどこに言ったらいいのか、人材確保が最重要課題ではあるが現状と目標を定めたときの責任の所在はどこに置いておくのかと確認があった。増田委員より、離島・へき地部会の中では県が決めることだと思っており、琉大病院や中部病院のどちらから人材がいくようなかたちを県がもっと主体性を持って言うしか増えないと思う、琉大病院や中部病院と交渉して確実に1人送ってこまではやると明文化し、講座がある琉大病院から確実に手術ができる人を送るということで協定を結ぶしかないのかもしれないと回答があった。

また、又吉委員より病院代や宿泊費の補助について確認があり、増田委員より、石垣と宮古は市から年2回の旅費の補助があり、がん患者のみならず難病患者なども含めた予算が出ていると聞いている、それ以外の離島も比較的船代は補助がある場合がほとんどだと回答があった。

宮里部会長より、八重山と宮古には腫瘍内科医がいた方が良いのではないかと、増田委員より、常勤の腫瘍内科医が1人いるとだいぶ違ってくると思うと意見があった。岸本委員より、宮古病院は今年4月から、中部病院の腫瘍内科医を目指している若い先生が化学療法のサポートを行っているが、来年はいなくなるため腫瘍内科医が常勤で1人は居てほしいところだと説明があった。

又吉委員より、本部会に県の方にも出席してもらったほうが良いのではないかと意見があった。このディスカッションの状況を直接見てもらいたいとの意見が一致した。

4.今年度の開催日程について

第2回 令和2年3月 日() :00～

令和2年3月10日に行われる「離島・へき地部会」の開催後に行うことが決まった。

また、仲里委員が出席できる日程で開催したほうが良いのではないかと意見があったため、仲里委員に日程を確認し日程調整を行うことが決まった。

5.その他

琉大病院の調整中の委員について、早めに選出してほしいと意見があったため増田委員と事務局で協議することになった。

また、次回の会議の際は、ベースになる資料があるともっと踏み込んだディスカッションができると意見があったため、次回準備する資料について増田委員と事務局で協議することになった。